

地域志向の人材育成の静岡県立大学モデル

静岡県立大学では、平成 26 年度から COC 事業を実施するなかで、多くの試行錯誤を重ねた結果、以下のような特徴をもつ、「地域志向の人材育成の静岡県立大学モデル」と呼ぶシステムを作り上げました。

「地域志向の人材育成の静岡県立大学モデル」5つの特徴

- ①内発的動機付け
高等教育機関である大学では、学生が自発的に地域というフィールドに出て、調査研究し学ぶことがコミュニティ・ワーク力の獲得につながり、継続性も担保できる。
- ②複線型育成ルート
学生が地域というフィールドに出て学ぶルートとして、研究室（ゼミ）、COC センター、サークル・ボランティア、と3つ設定し、学生に多様な機会を提供する。
- ③国際的にも活躍できる能力
静岡県では大企業・中小企業の多くが国際展開し、また、インバウンド客が増加するなど、地域志向の学生も国際的に活躍できる人材となることが求められている。
- ④教員の専門知の活用
地域からは、学生の参加のみならず教員の専門知が求められることが多く、可能な限り教員の専門知と学生の新しい発想や意欲とを組み合わせることとする。
- ⑤人材の地域内循環
本学から社会に巣立った人材は地域社会や国際社会で活躍する一方、「地域みらいづくりフェロー」や「健康長寿フェロー」になって本学の人材育成に貢献するなど地域内で人材が循環するシステムとする。

《静岡県大モデルの特徴》

- ・内発的動機付け
- ・複線型育成ルート
- ・国際的にも活躍できる能力
- ・教員の専門知の活用
- ・人材の地域内循環

